

## 特集「ユーザブルセキュリティ」の編集にあたって

金岡 晃<sup>1,a)</sup>

「ユーザブルセキュリティ」特集号が出版の運びとなった。ここに編集委員会を代表して経緯と感謝を述べたい。

本特集号は2019年上期に企画され、26名のメンバからなる編集委員会が編成された。同年10月に論文募集を開始。5カ月の投稿期間を経て19件の投稿を得、さらに6カ月の査読と照会を経て、最終的に14件（英語論文3件を含む）が採録された。採録率は74%である。

「ユーザブルセキュリティ」特集は昨年も企画され発刊された。前回特集における積極的な投稿状況やその質の高さは日本におけるユーザブルセキュリティ研究が一定の成熟さを迎えたと考えられることができる。さらなる高度化や裾野の広がりが期待でき、また社会的な要求の高まりがあることをふまえ、同じタイトル「ユーザブルセキュリティ」を冠して本特集を組んだ。

本特集ではユーザブルセキュリティを、人の利用を考慮に入れたセキュリティ技術・プライバシー保護技術に関するものとし論文を募集した。セキュリティは情報セキュリティを想定し、さらにプライバシー保護も対象とした。

ユーザブルセキュリティは、本特集の母体となったセキュリティ心理学とトラスト（SPT）研究会で、継続的に研究発表や勉強会が行われて来た経緯があり、さらに2017年度からはワークショップも開催するなど精力的に取り組まれてきている。本特集ではユーザブルセキュリティを必ずしも固定された分野としてとらえず、本特集の論文投稿者と読者やこれからの研究者らが確立していくものと考え、論文募集のスコープを柔軟に設定した。論文募集のスコープは、ネットワークセキュリティ、コンピュータセキュリティ、データプライバシーなどの分野で、利便性や効率を分析・改善する研究、運用に関する研究、あるいは人の利用を逆手に取ったサイバー攻撃手法とその対策の研究、エラーの発生に関する研究、さらには研究倫理や同意取得等に関する研究と例示された。本特集号では、研究論文に加えいわゆる SoK (Systematization of Knowledge) 論文として、既存の研究の評価・体系化や既存の研究領域に対する新たな洞察や再評価、新たな分類法を提供するような論文、また本分野における研究手法や評価方法自体を整理するよう

な論文などを掲載することも目的とした。SoK 論文は通常の研究論文と異なる査読方針により評価された。

査読プロセスにおいては、第1回判定では本会の論文査読ポリシーである「石を拾うことはあっても玉を捨てることなかれ」を重視するとともに、セキュリティやプライバシーに関する研究の裾野の拡大を意識して、編集委員会で時間をかけて丁寧な議論を、一方で第2回判定では、採録論文の質の担保を確保することに焦点を当てる編集方針で臨んだ。査読委員各位には大変な苦労をお願いすることとなったが、そのことは74%という今回の採録率として実を結んだと考えている。

採録された論文は、ユーザの行動や姿勢を詳細に分析しその特性を明らかにする論文が4件と最も多く、「ユーザブルセキュリティ」を冠する本特集の特徴が大きく出た。それぞれの研究対象分野を見ると、機械学習やシステム解析、システム設計、認証、マルウェア分類など多岐にわたる。人の利用とセキュリティ技術の繋がり的重要性とその裾野の広さが反映されたものとなっており、本特集が狙った効果が出ていることが伺える。また今回新たな試みとして実施された SoK 論文も1件採録されたことにも注目したい。

本特集の論文投稿締切りは日本において COVID-19 による影響が大きく出る前であった。ユーザの行動特性は社会的な背景の変遷を反映し変わっていく。ユーザブルセキュリティに欠かせない「人の利用」という視点において、こういった行動特性の変化は重要な意味を持つ。COVID-19 以前を反映した本特集号に採録された論文は、COVID-19 の影響を受けそして共存しなければならなくなった新たな社会において違う意味を持つかもしれない。それらのユーザ視点が変わらずに受け入れられるものなのかをさらに調べる良い機会として、研究に活かしていくことが肝要だろう。人の利用とセキュリティ・プライバシー技術の架け橋となる研究は継続的に行われることが社会的にも求められることになろう。

最後に、改めて本特集の機会を与えていただいた情報処理学会論文誌編集委員会、SPT 研究会の諸氏に感謝し、本論文誌のあり方に関する真摯な議論と丁寧な査読をしていただいた編集委員各位に感謝し、著者を支えてくれた査読者各位に感謝する。本特集が社会のコンピュータシステムのセキュリティ技術の向上と人の利用とセキュリティ・プ

<sup>1</sup> 東邦大学  
Toho University

<sup>a)</sup> akira.kanaoka@is.sci.toho-u.ac.jp

ライバシ技術の架け橋の一助になることを心より願う。

「ユーザブルセキュリティ」特集号編集委員会

- 編集委員長  
金岡 晃（東邦大学）
- 幹事  
島岡政基（セコム）  
金森祥子（情報通信研究機構）
- 編集委員  
市野将嗣（電気通信大学），猪俣敦夫（大阪大学），稲葉  
緑（情報セキュリティ大学院大学），上原哲太郎（立命  
館大学），大坐島智（電気通信大学），小松文子（長崎県  
立大学），五味秀仁（ヤフー），駒野雄一（東芝），坂本  
一仁（DataSign），斯波万恵（東芝），白石善明（神戸  
大学），高田哲司（電気通信大学），高橋克巳（日本電信  
電話），田中健次（電気通信大学），角尾幸保（東京通  
信大学），寺田真敏（日立製作所），西垣正勝（静岡大  
学），畑島 隆（日本電信電話），松浦幹太（東京大学），  
宮本大輔（東京大学），村山優子（津田塾大学），毛利  
公一（立命館大学），山田 明（KDDI 総合研究所）